



言葉で感じる季節

冬
際
ふゆとなり

まわりの景色や雰囲気から、冬の訪れや気配を感じられる晩秋の頃。厳しくて寒い冬の季節に向かっていく、そんな心を構える感じがあります。

そこまできている冬を、まるで親しい友人のように呼ぶ言葉。旬の美味しさが増していく冬の寒さは、ねぎにとって大親友。



山々が紅葉を色づく様子も、楽しんだ束の間の秋も終り、毎朝の寒さが身に染み込む日々、九条ねぎの旬の季節です。

今年一年、大変お世話になりました！

いつもご利用いただき、支えていただいている、関わった全ての方に感謝する一年でした。新しい年も、よろしくお願いいたします。

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

九条ねぎの旬の季節が到来！冬葱のお届け

今月からは京都市伏見区・久御山町で栽培した冬葱をメインにお届け。温暖化によって夏場は作りにくくなった土地ですが、これから寒くなる冬は最適な環境の地。残暑の9月に定植したもので、10～11月とねぎたちにとって生育適温の時期を過ごしています。10月頃はなかなか雨が降らず、いつも以上に天気予報に敏感になり、ひやひやした思い出もあります。しっかり世話をし、冬葱らしく重さももってきたなあとお収穫して旬を感じました。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信

冬支度、順次被覆トンネルを設置中。

朝晩の冷え込みが強くなり、夜温低下でねぎが傷まないように、パオパオ（不織布）やトンネル被覆（ビニール）を順次設置！本来、生育が進む予定の10～11月の雨量が少なく、生育が遅れてしまっている分を取り返す意味でも、農人たちはいつもより気持ち早めに冬の準備をしています。ただ、早く準備をしても被覆をすると肥料を撒くことができないので、まだあたたかい日がある内に少しでも生育させるために追肥作業を行いました。寒さや霜からねぎを守ってくれます。昨年バトンハウス設置面積拡大を試みましたが、強風に煽られて失敗に終わりました。今年はそのリベンジで、やり方を工夫して風には負けないハウスを設置。このハウスのおかげで、肥料を定期的に与えることができるので、春に向けての栽培も進めることが可能になります。

とある日の農人日記。

圃場の見回り中、「頑張れよ。おまえたちなら大丈夫！」とねぎたちに向かって叫びました。側から見るというコントのように見えました。ねぎにもきっとこの笑いは伝わっていると感じました。（大石）



今年の冬も寒くなるなあと感じる秋の終わりの頃。



被覆する前、肥料を撒いたあとの様子。



バトンハウスとは、徳島特有の少し小さいビニールハウスで、ちょうど人が入れる大きさです。

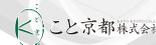
古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

ことねぎだより

NO.175

2021年12月号

TEL: 075-601-0668



※ 年末年始、余裕を持ったご発注を ※
毎年この月は、年末にかけての繁忙期・交通事情等で時間指定されていても延着等のトラブルが発生しやすい傾向です。万一に備え、店舗様の方で通常よりも在庫をお持ち頂き、若干の延着が発生しても影響が緩和できるようご協力頂けますと幸いです。